

広報 たなべ

ともに歩こう。次の1000年へ。

1

2026

No.248



特集

地元を 彩る 祭り

市には、特色あふれる様々な祭りが
あります。地域の歴史や文化が刻まれ
た祭りに参加することで、新たな発見
や交流が生まれるかもしれません。伝
統ある各地の祭りを取り上げます。

INDEX

令和8年 田辺市消防出初式 / 第100回新春初泳ぎ 第42回新春初漕ぎ / たなべ住人
十彩「この地のお茶をつなぎたい」^{くらたに} 倉谷 ^{なつみ} 夏美さん ジョーダンさん（本宮町大居）/
アオハル高校生レポーター「“やりたい”を叶えるエネルギー」神島高等学校 ^{やまね} 山根 ^{かえで} 楓



地域性豊かな、田辺の祭り。



■県又は市の無形民俗文化財に指定されている市内の祭り

実施時期	祭りの名称（所在地）	写真番号
1月7日	八咫烏神事（本宮町本宮）	
1月12日・13日	浦安神社の恵美須祭（磯間）	
2月の二の午の日	粥占い神事（稲成町）	①
4月第1㊥	太子講（朝日ヶ丘）	
4月13日～15日	熊野本宮の湯登神事・御田祭（本宮町本宮）	②
5月5日	御田植神事（稲成町）	③
7月13日	新庄ぎおんさん夜見世（新庄町）	
7月24日・25日	田辺祭（東陽）	④
8月14日・15日	伏拝の盆踊（本宮町伏拝）	⑤
8月15日	お夏清十郎踊り（本宮町土河屋）	⑥
	萩の餅搗踊（本宮町伏拝）	⑦
	流れ施餓鬼（下川上）	⑧

実施時期	祭りの名称（所在地）	写真番号
8月盆明けの週末	熊野本宮踊（本宮町本宮）	⑨
10月第2㊥	寿式三番叟（中辺路町栗栖川）	
11月2日・3日	芳養八幡神社の秋祭（中芳養）	⑩
	小家神楽（龍神村小家）	⑪
11月3日	住吉踊（長野）	⑫
	上野の獅子舞（下川下）	⑬
11月3日 1月3日	野中の獅子舞（中辺路町近野地区）	⑭
11月22日・23日	万呂の獅子舞（中万呂）	⑮
12月10日	御竈木神事（本宮町本宮）	⑯
※不定期等	大瀬の太鼓踊（本宮町大瀬）	⑰
	平治川の長刀踊（本宮町本宮）	⑱
	三川の獅子舞（熊野・合川・面川・木守）	

古くから続く「馬祭り」 支えるのは地域への熱い思い

地域に知られる「馬祭り」

芳養八幡神社の例大祭は、「笛」「太鼓」「獅子舞」がなく、中芳養と上芳養の地区ごとに馬を出し行われる流鏝馬行事や馬駆け行事で有名です。馬が走る様子を一目見ようと、大勢の観客でにぎわいます。

例大祭当日まで馬と共に

馬の宿は「当屋」と呼ばれ、区ごとに決まっています。そこに馬小屋を設置し、馬のお世話が始まります。宵宮祭では、芳養町の中浜で馬が清祓いを受ける潮垢離行事が行われます。地下回しは馬を連れて、楽器を演奏するのではなく「馬子唄」をうたいながら

人々のお宅を回ります。

馬を走らせ続けるために

「馬祭り」を続けていくための一番の課題は、馬を引く力のある若者が足りないことです。即効性のある解決策を考える事は難しいのですが、まずは地域の子どもたちに、神社を身近に感じてほしいと思っています。ここでは早くから子ども神輿を始めているのですが、それも小さい子どもにも祭りに参加してほしいという思いからです。

地域と祭りへの思い

この地域は農家が多く、ありがたいことに祭りに対して熱心で協力的です。区によっては、今でも当屋が中心となり大勢で食事をする文化が続いており、大切な文化であると感じています。人手不足など課題はありますが、この先もこの伝統を継承していきたいですね。

芳養八幡神社（中芳養）の例大祭は、県指定の無形民俗文化財で、馬が走る「馬祭り」として知られています。



祭りの文化をつないでいくために……

上芳養中学校では、日向地区青年部の更井さんを中心となり、地域の伝統を伝える地域学習が行われました。



日向地区青年部
更井 亮介さん

青年部の一員として祭りに参加しています。祭りは、世代関係なく交流でき、地域とつながることができるのが魅力です。また、芳養八幡神社の祭りは馬はもちろん、馬子、巫女、そして地域の方々が作ってくださる料理など様々な魅力があります。中学生から祭りを知ってもらい、積極的に関わってほしいと思います。将来この地域を離れても是非祭りには参加していただき、皆でこの伝統をつないでいきたいですね。



グループワークでは、大切にしたい伝統や行事、将来の地域との関わり方を話し合いました。

未来へつなぐ太鼓の音 変わりゆく祭りのかたち

長野地区の祭りは、県指定の無形民俗文化財「住吉踊」を長野八幡神社（長野）に奉納します。

地域に根ざした三地区の祭り

長野地区の祭りは、もともと西原・東原・長尾の三地区で行われてきました。長尾の獅子舞は担い手不足とコロナ禍で惜しくも解散。

現在は西原・東原地区の十数人の踊り手が、太鼓の響きに導かれ、県指定の無形民俗文化財「住吉踊」を八幡神社に奉納します。

子どもたちの神輿と

地域の工夫

約35年前から、長野小学校の児童による子ども神輿が始まりました。当初は50〜60人が参加し、立派な神輿を担いでにぎわいましたが、現在は

20人足らず。担ぐ人が少なくなると重くて大変だろうと、担ぎやすい大きさの神輿を保護者が手作りしました。

かつては子どもたちに、課外学習で笛を教えたこともありました。

祭りの担い手の変化と

大人たちの思い

神社の境内では、かつては露天商の出店が並んでいました。また、若者が踊り手を担っていました。

若者が減る中、小学生の保護者が子ども神輿や住吉踊に携わり、それ以外の地域の大人たちが、輪投げなどのゲーム、おでんやお餅、アイスク

リームなど、子どもたちが喜ぶようにと心を込めて準備しています。

時代に合わせた交流

私が現役の頃は、当屋に農業仲間が集まり宴会をしながら練習していました。今では会館に場所を移し、職種も年齢もさまざまな人が集う貴重な交流の場となっています。

住吉踊の奉納後には、酒樽を割って日本酒で乾杯するのが恒例でしたが、今では若者の嗜好に合わせ、自由にお酒を楽しむ形になりました。

未来へつなぐ祭りのかたち

人手不足や時代の変化の中でも、祭りを続けたいという思いは変わりません。世代を超えて文化をつなぎ、地域が一体となってまちのにぎわいが続くことを願っています。



長野八幡神社 総代長
那須 豊平さん



手作りの神輿を元気に担ぎます

地元の大人たちが出店を盛り上げています



毎年恒例の集合写真が地域の歴史を重ねます

地域のあたたかな視線に包まれて、舞を奉納しています



「上野の獅子舞」をこれからも

「上野の獅子舞」と親しまれる舞。演目の「お神楽」は、神主が執り行う「奉幣」、巫女の神事「里神楽」と同様に厳肅な神事として取り扱われます。

上野地区では、もともと獅子舞の獅子頭に入ることや、笛や太鼓を取り扱うことができる家系が定められており、一子口伝で門外不出とされてきました。現在は、過疎化からの担い手不足により、限られた人で行うことはありませんが、神主の私さえも知らない様々な伝統が守られてきています。

人それぞれの意味があつていい



春日神社 宮司
坂本 満男さん

いる様を表しているところ。これは、神主である私と総代のみがその獅子舞を真横から見ることができのですが、頭から尾の先まで一直線になり、拝んでいる光景が神々しく感じます。

神事の意味合いなどにこだわるのも大切ですが、参列される方が、お神楽を見てどう感じるかを大事にしてほしいです。「木立に響く笛や太鼓の音がいい」など人それぞれに感じてもらえるとうれしいです。

「上野の獅子舞」は、春日神社（下川下）の秋祭りで奉納される獅子舞です。獅子舞の部で、初の県指定の無形民俗文化財に登録され、五穀豊穡と村人の安全を祈願する神事として演じられます。



舞手は二人立ちで



笛・太鼓が舞を引き立てます



近くの介護施設の皆さんも、観覧されていました



迫力のある演舞

お多福

形が変わっても、受け継いでいきたい

上野の獅子舞は、遡ると室町時代から続く儀式と言われています。以前はふるさと富里まつりと同日に開催され、もう少し観客も多かったのですが、祭りが無くなった今でも100人近い方に見ていただけるのはありがたいことです。

獅子舞の基本である乱獅子は、「たて獅子」などの形があり、太鼓や笛も力強く、勢いのある舞となります。通常の動きに、乱獅子の荒々しい動きが入り混じること

で「乱れ」を表現しています。地域には若者が少なく、担い手不足は否めませんが、最近、地域に縁が無い若い方も参加してくれています。本来なら細かい作法や技の伝統も受け継ぎたい気持ちがありますが、少し形が変化したり、演目の数が減ったりしても、それでもなお、この獅子舞をつないでいく——。それが私の使命と思っています。



上野獅子舞保存会 会長
湯川 剛さん